

笑顔があふれる町へ

社川小学校 6年

野村 杏子（のむら あこ）



「笑顔とやさしさがあふれる町になってほしい…」

みなさんは、この町をたくさんの笑顔とやさしさあふれる町にするためには、どうすればいいと思いますか。私は、自分自身はもちろん、友達、家族、地域の方をはじめ、どんな人も笑顔で過ごせること、周りの人へやさしさや思いやりの気持ちを持つことが必要だと思います。やさしさや思いやりの気持ちを持つことで、町中のみんなが笑顔になり、やさしい気持ちで毎日を過ごすことができるのではないのでしょうか。そうすることで、棚倉町がさらに、よい町になっていくのではないかと私は考えます。

そう考えるきっかけとなったのは、今年の夏、チャレキッズで寿恵園に行き、お年寄りの方とふれ合う機会があったからです。寿恵園にいるお年寄りの方は、初めて会う人ばかりなので、訪問するまでは、どのように関わったらいいか、何を話したらいいか不安でした。もしかしたら、寿恵園に行っても、自分は何もできず、そこにいただけになってしまうのではないかと思いました。でも、あることで、私の不安は、吹き飛んでしまいました。それは、お年寄りの方におそるおそるお茶を出した時です。

「ありがとう。」そのやさしい感謝の言葉を聞いた時、一瞬で私の心は温かくなりました。たった一言、今まで何度も聞いたことのある言葉でしたが、私を見ながらやさしい表情で言ってくれたお年寄りの方の心のこもったありがとうが、私の心から不安な気持ちを消してくれました。私は、うれしくなつてつい、いつも友達に話しているように話してしまったために、私が言っている言葉がうまくお年寄りの方に伝わりませんでした。すると、またどんどん不安になってしまいました。そんな時、

「体験で来ているの？何年生？」と、お年寄りの方が先に話しかけてきてくれました。私のひいおじいちゃんも耳が遠く、はっきり、ゆっくり、大きな声で話すように気をつけてきたことを思い出して、やってみました。すると今度は、私の言葉がうまく伝わって、お年寄りの方と会話が続きました。どんどん話が盛り上がってくると、みんな楽しそうに笑って聞いてくれました。話をしているうちに、自分のおじいちゃん、おばあちゃんと話しているような気持ちになりました。楽しそうな表情で話をしているお年寄りの方を見ていると、自分も楽しくなり、自然と笑顔になることができ、さっきまで不安だった気持ちが少しずつなくなってその時間を楽しむことができました。職員の方を見ていると、お年寄りの方と関わることを楽しんでいるように思えました。「相手を笑顔にするためには、自分自身が笑顔でいなければならない。」職員の方の関わり方を見て、お年寄りの方に思いやりの気持ちを持って接していくことの大切さを学ぶことができました。私は、お年寄りの方と会話するのが苦手だったけど、今回、寿恵園を訪問したことで、知らないお年寄りの方とも笑顔で話すことができました。会話も続くと、「もっと話してみたい、お年寄りの方と話すのが楽しい。」と思えるようになりました。

自分がよく知らない人と話すことは、抵抗があると思います。私も相手から話しかけられたら、話せませんが、やっぱり緊張してしまいます。しかし、少し勇気を出して自分から話しかけてみると、相手とコミュニケーションをとることができるのだと思います。話す機会が増えれば、「はずかしい」よりも「もっと話してみたい」という気持ちが大きくなると思います。

棚倉町がやさしさであふれ、笑顔に包まれる町になって欲しいと願っています。そのためには、周りの人を思いやる必要があります。自分とちがうということで、関わりを減らすのではなく、いろいろな人と関わることで、自分を成長させられる、世界を広げられるという気持ちを持って接することが大切です。みんなが相手を思いやり、言葉をかけ、やさしく関わることで、差別がなくなり、お互いを理解することができる。それがすてきな町づくりにつながると思います。さらに、棚倉町だけではなく、となりの町や市、福島県、日本全国、世界中へと広がり、平和な世界になってほしいと思います。

そのために、私は、自分が今できることをこれから少しずつ取り組んでいきます。そして、笑顔とやさしさのあふれるこの町をもっと好きになりたいです。